

会 議 録

1	会議名	第5期南砺市協働のまちづくり推進会議 第9回推進会議（全体会）
2	議題	1. 開会 委員長あいさつ 2. 議事 市長への提言に対する回答について 南砺市まちづくり基本条例に基づく「市民参画」と 「情報共有」の実施状況について 3. 閉会
3	開催日時	令和6年2月21日（水） 開会時間：午後7時／閉会時間：午後9時
4	開催場所	井波コミュニティプラザ「アスモ」大会議室 （南砺市山見1739番地1）
5	出席者	[委員：全20名] ※50音順、敬称略 出席：荒木 信人、磯辺 文雄、上坂 紀子、江田 攻、長田 正勝、 齊藤 優華、坂本 博昭、佐竹 弘昭、竹部 俊恵、俵 圭子、 能登 貴史、長谷川 邦子、林 則雄、松本 久介、 渡辺 洋子 欠席：嶋田 早苗、中山 明美、松嶋 裕治、南 眞司、藪 英雄 [市] 事務局 南砺で暮らしません課長 大浦 幸恵 南砺で暮らしません課 山下 真人 協働のまちづくり係長 得能 基史 協働のまちづくり係
6	傍聴者	0名
7	内容及び 決定事項	協議内容 ・市長への提言に対する回答について説明 ・南砺市まちづくり基本条例に基づく「市民参画」と 「情報共有」の実施状況について報告

7 会議録	<p>1. 開会 委員長あいさつ</p> <p>2. 市長への提言に対する回答について</p> <p>3. 南砺市まちづくり基本条例に基づく「市民参画」と「情報共有」の実施状況について</p> <p>(事務局より資料説明)</p> <p>A委員 市民への情報提供の部分の回答について、第5条に関する提言への理解はいただけたと感じているが、地域づくり協議会情報交換会にて説明したことを南砺市ホームページで掲載しているのか。</p> <p>事務局 それは掲載していない。 地域づくり協議会情報交換会では、南砺市ホームページに掲載している内容または掲載する予定の内容を地域づくり協議会情報交換会にて説明している。</p> <p>B委員 市の職員研修は意味のあるものだと思う。南砺市協働のまちづくり推進会議は提言についてフィードバックがあるので、いい審議会だと思う。他方、フィードバックがない審議会があるので、問題だと思う。南砺で暮らしません課長の意見を聞きたい。</p> <p>事務局 南砺市協働のまちづくり推進会議からの提言については市長への報告に併せて南砺市協働のまちづくり庁内推進本部でも協議を進めてきた。いただいたご意見や審議会の進め方については市内部でも共有したい。</p> <p>林委員長 ご意見の検証ということも次期での課題としたい。 引き続き、2年間の感想や第6期への期待について各委員から聞きたい。</p> <p>C委員 提言を即実行してくれて嬉しく感じている。今後も継続をお願いしたい。 新設される協働のまちづくり支援センターのホームページはしっかりとプロモーションして、垣根なく広めてほしい。</p>
-------	--

D委員

行政は、やったことに対する検証ができる体制になっていないと感じた。これからも言い続けたい。

E委員

立案段階からの市民参画の取り組みが大切である。様々な情報提供・情報公開の受け皿として、地域づくり協議会の存在がますます重要となると思うが、そういう認識でも良いか。

事務局

そのつもりである。

E委員

地域づくり協議会も含めて、地域に出向いて説明するべきだと思う。例えば市議会議員さんと同行するなど、協力して行うべきである。

F委員

私は小学生の子どもがおり、学校での説明会に出ることがよくある。E委員やB委員が言われた「説明会」に関するコメントに感心した。説明会は個別ではなく相対的なものにしてほしい。

震災に関して、想定外に対応するために自分の動きを検討していく必要がある。まちづくりを起点として教育や農業に関わっているが、答えがなくどこから手を付けていいかわからない。

G委員

市民団体の活動支援について、「ホームページを作って終わり」にならないように取り組んでほしい。

審議会の傍聴やパブリックコメントがないという点も考えてほしい。パブリックコメントは要約版を作るなど、ルールを統一してもいいかもしれない。情報発信については、なんと Hug との連携など、プッシュ型を推進してほしい。今あるものの活用も忘れずにやってほしい。

H委員

推進会議が前に進んでいるのはわかる。少しずつだが仕方がない。

現在の南砺市のシステムでは、市民の声を吸い上げるシステムは地域づくり協議会だけになってしまう。私は自治会など、もっと小さい組織に注目してもいいと思う。地域づくり協議会の活動の検証についても検討してほしい。地域に任せることも大事だが、協議会を指導するということが検討いただければと思う。ホームページの閲覧数という切り口は良かった。

I 委員

前回の回答は「普及に努めます」のような抽象的なものが多かったが、今回は実行されてきたので、市としての説明に反映されていた。職員研修はどのような反応だったのか気になるところである。今後も推進会議の委員として市の動きを見たい。閲覧数も更に高めてほしい。

B 委員

円卓会議をなんのためにやるのかということを出してほしい。私はもっとやってもいいと思う。審議会で計画案ができたなら円卓会議を必ず実施するような癖をつけてほしい。報告会のようなものもあっていい。この推進会議は行政運営を全般的に見られるので、今後も大切にしたい。

提言への回答については、「政策立案段階から」という部分を実現してほしい。地域づくり協議会はひとつのツールであって、他にも団体はたくさんある。

J 委員

今回の職員研修は市の特別職にも聞いてほしい。

話は変わるが、社会教育推進大会は地道に活動を続けている人にもスポットライトを当ててほしい。また、市の職員は現場に出向くという意識を持ってほしい。中央集権しているような気がする。

K 委員

スピード感があって良かった。これからもより良い南砺市のために、どんどん動いていくことを期待している。

L 委員

この推進会議の味方を増やすということも大切である。行政組織の約束ごともあるので、その点を理解しつつ進められれば。先日イナミライに参加し、人から人への伝播していく熱のようなものを感じた。我々も参考にできればと思う。

職員研修は素晴らしい。地域づくり協議会や市議会議員にも条例に関する研修を実施し、味方を増やす取り組みをしていければと思う。

M 委員

公募委員の募集の際には「その期でやること」を明記するべきではないか。

また、パブリックの実施は半年くらい前に公表しておくべきではないか。パブリックコメント実施計画。なんと Hug や結ネットなどのアプリがあるが、プッシュ型での情報共有を強化いただきたい。

A委員

市民条例を策定した当時のことを思い出した。この推進会議は、南砺市で一番自由に発言できる会議だと思う。体制はできたが、どう生かしていくかという点はこれからである。公募委員の意味はもっと突き詰めてほしい。審議会同士の横串なども検討すべきである。

齋藤副委員長

この会議がどの方向を向いているのか、わかっていなかったが、何となく流れが見えてきた。

残された宿題として、市民からの意見をどこへつなげていくか、市民の声を拾うにはどうするか、相談窓口のネットワーク構築をどう進めるか。それらのサイクルの仕組みをしっかりと作っていかねばならない。そのためには地域づくり協議会の運営ガイドラインが大事になってくる。

また、条例に関する市報の特集なども検討いただきたい。

林委員長

今期前半は勉強会の位置づけで、議論のベースを合わせるための活動期間とさせていたただいた。総じて、前回から進んでいるものもあると思っている。職員研修も実施したので、来年度の行政運営が市民目線で進むことを期待している。

4. 閉会